

第6次高浜市総合計画推進会議（第1回） 会議録			
日時	平成30年7月30日（月）午後7時～8時35分		
場所	いきいき広場 ホール（2階）	傍聴人数	6名
出席者	委員	中川幾郎、酒井康満、菅野洋一、清水恵子、高桑雄司、竹内一仁、田代峯子、内藤靖子、古橋知美、宮田克弥、神谷坂敏 (11名出席)	
	行政	市長 吉岡初浩 教育長 都築公人 総務部長 内田徹 財務グループ リーダー 竹内正夫 文化スポーツグループ リーダー 鈴木明美 学校経営グループ リーダー 岡島正明 学校経営グループ 主幹 村越茂樹 こども育成グループ リーダー 都築真哉 人事グループ リーダー 杉浦崇臣 行政グループ リーダー 中川紀幸 (10名出席)	
	事務局	総合政策グループ リーダー 榊原雅彦 同 副主幹 山本久美 同 主事 小林春奈 同 主事 加古博紀 同 主事 中村 稔 (5名出席)	
次第	1 あいさつ 2 議題 1) 中期基本計画の総括について 1. 総括の進め方等について 2. 市民意識調査の結果について 2) 「中期基本計画の総括シート」の発表について〔基本目標Ⅰ・Ⅱ〕 3 その他		
資料	資料1：中期基本計画の総括について 資料2：第6次高浜市総合計画 基本計画【中期】の総括 〔基本目標Ⅰ・Ⅱ〕		

1. あいさつ

- 会 長： ・昨年、平成29年度は、中期基本計画の最終年度ということで、行政では「中期基本計画の総仕上げの年」と位置づけ、目標達成に向けて取組みを進めてきたと伺っている。
- ・本日は、中期基本計画に掲げた目標の達成状況を点検・確認するということで、行政内部でとりまとめた「中期基本計画の総括シート」の内容を発表してもらおう。
- ・4年間の取組内容や成果、課題などをしっかりと確認し、ともに総合計画を推進してきた私たち委員から、今後に向けて、取組みをよりよくするための意見を述べていきたい。

2. 議題

1) 中期基本計画の総括について

- 会 長： ・議題1「中期基本計画の総括について」に入る。
- ・事務局から、総括の進め方や目標の達成度合いをはかる「市民意識調査」の結果について、説明をお願いしたい。
- 事務局： 資料1に基づいて説明
- ・進め方などについては昨年度の推進会議で提示したスケジュールと大方、変わらない。
- ・市民意識調査の結果に関して
- ①基本計画の施策に対する結果
- ・動向の説明→目標（5）は2.8%上昇、目標（8）は横ばい、その他は前年比から下降傾向にある
- ②みんなで目指すまちづくり指標
- ※数値の「結果をどう受け止めたか、分析など」については、この後の発表の中で説明する。
- 会 長： ・ただいま事務局から説明があったとおり、結果の分析については、この後、発表で触れる。

2. 議題

2) 「中期基本計画の総括シート」の発表について

- 会 長： ・議題2「中期基本計画の総括シート」の発表についてに入る。
- ・発表の前に、事務局から、発表のねらい、発表方法などについて、説明をお願いしたい。
- 事務局： 資料2をもとに「総括シートの見方」を説明
- ・目次の[1. はじめに]、[2. 「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」の結果]は資料1がそのまま差し込まれる形になる。
- ・シートの見方に関しては目標ごとに、中期4年間の取組み等をまとめてある。
- ・「I-1 目指す姿」は総合計画より転載している。
- ・「I-2 市民意識調査結果」と「I-3 みんなで目指すまちづくり指標の状況」は、4年間の推移をグラフで表現している。

- ・「4 現状分析」は、「指標の状況」や「市民意識調査結果」を踏まえ、指標（目標）が達成できた要因・達成できなかった要因といった分析内容を各とりまとめ担当グループで記述している。
- ・「II 目標達成のための主な取組み」は、掲げた目標の達成に向けて、前期の4年間でどんなことに取り組んできたかを振り返り、主な取組み内容について、「いつ」「何を」「どうした」かが具体的にわかるように記述してある。
- ・「III 課題と今後の取組みの方向性」は、中期の取組みから見えてきた課題や新たな課題を上げ、課題に対して、後期でどんな風に取り組んでいくか、どの目標やAPに反映されているかをまとめた。
- ・「IV 推進会議コメント」は、委員の皆さんからのコメントをまとめる。

発表方法について、

- ・第1回は基本目標I～IIを、第2回推進会議では基本目標III～IVを発表する。
 - ・今回の「中期基本計画の総括シート」の発表は、目標の達成に向けて平成26年度からの4年間で、どんなことに取り組んだのか、目標の達成状況はどうだったのか、取組みから見えてきた課題や今後の方向性について、どのように考えているのかを、各担当グループリーダーから説明する。
 - ・発表にあたっては、シートの「I-4 みんなで目指すまちづくり指標・市民意識調査結果に対する現状分析」、「II 目標達成のための主な取組み」、目標達成に向けて4年間で何を行ったのか、そして「III. 課題と今後の取組みの方向性」を中心に説明する。
 - ・今回は平成29年度の施策評価と総括、APの年度振り返り要素を合わせ、同シートでまとめることで事務の簡略化も図っている。
- 会 長： ・では、発表に入る。まずは基本目標Iの発表ということで、資料2の8ページ、目標（1）（2）の発表からお願いしたい。
- 行 政： <目標（1） 資料2 8～11ページを基に発表>
 <目標（2） 資料2 12～16ページを基に発表>
- 会 長： ・ただいまの発表で意見等があればお願いしたい。
- 委 員： ・地域活動の運営側の担い手不足という話があるが、課題解決のために市の職員が果たす役割は重要であると感じている。
- ・職員の若手の離職率や求人の推移はどうなっているのか。育ってきているのか。
- 行 政： ・離職率に関して言えば、若手職員の離職率は高くなっているのが現状である。高浜市に就職してまちのために、長く働いてもらえるような人材育成を今後も行っていきたい。
- ・管理職員のマネジメント研修、ハラスメント対策といったことを行い、働きやすい職場の実現に向けて、まずは管理職が中心になって取り組んでいきたい。
- ・求人については、現在民間の景気がいい（採用が多い）こともあり、募集をしても集まりにくい状況下にある。特に技術職に関しては定員に満たないこ

ともある。2022年問題（新卒者が少なくなる問題）といわれる課題に対応するため、優秀な人材を取り入れるべく、前倒し採用してでも獲得したいこうと考えている。

- 委員：・シートのⅢ.「課題と今後の取組みの方向性」と矢印の下、後期基本計画の「こんなことに取り組みます！」は連動しているのか。
- 行政：・概ね連動するような形で記載している。
- 委員：・目標（1）シートのⅢ.「今後の取組みの方向性」（1）で、抜本的な改革を行うと記載されているが、もう少しわかりやすく記載した方がよい。
・また、（2）に記載があるように、リーダー的な人が入ってこないという話だが、市民から発掘するようなことが（特技とか持っている人を取り入れるような発掘）できるとよいと思う。
- 行政：・抜本的な改革の具体的なことは、H30のアクションプランで記載しているところである。
・（2）の意見に関しては、いま関わっている人たちの次を発掘ということで、まちづくりの現場でも取り組もうとしているが、なかなか手立てがない状況である。皆さんと一緒に解決に向けて取り組んでいきたい。
- 委員：・全部の目標で言えることだが、Ⅰ.「目標と目標の達成状況」の2.市民意識調査結果のグラフをもう少し見やすくするとよい。
・目標（1）シートのⅢ.「今後の取組みの方向性」（3）ワークライフバランスの見直しに関して、「職員一人ひとりの仕事の見直し」と記載があるが、個人に考えてもらおうと答えが出ないと思う。
・マネージャークラスがある程度方向性を出して、仕事の見直しを行う方が進みやすいと思う。
- 行政：・見直しについて管理職から研修と実践を行っていく必要がある。個人については仕事のやり方を見直すことで、ほんとに効率的にやれるのかどうか見つけ直す機会にしたいと考えている。
- 委員：・目標（2）シートのⅢ.「課題と今後の取組みの方向性」（2）に関して、滞納状況に応じた市税の徴収とあるが、職員に対してのマニュアルはあるのか。
また、マニュアルの中身について、各市町と情報交換はしているのか。
やっていなければ、取り入れていただき、ぜひとも税の不公平をなくしてもらいたい。
- 委員：・9ページ「主な取組み」に記載がある、自治基本条例を広げていく出前授業について、H29から学校側の希望制により実施するという形になったわけだが、結果として地域の人が6年生を対象に自治基本条例を広めるという取組を現在は、学校の先生が教えているということか。
- 行政：・自治基本条例の出前授業を実施していない学校については、リーフレット（副読本）を配布して、社会科の授業等で活用している。
- 委員：・授業の中でかならず、みんなも（子どもも）市の行事（まちづくり）に参加

- できるんだよといった、子どもの権利を伝えてきた経緯がある。その甲斐もあって中学校になった生徒がまち協の行事などに参加する姿もあった。
- ・しかし、将来的に、どこの学校も出前授業を行なわなくなる可能性があることに、少し不安があったので質問した。
- 行政： ・各地区のまちづくり協議会などの協力をいただいて、学校と地域とのつながりは強固なものになって、いろんなことに取り組んでいる。
- ・学校と地域・家庭との連携は随時行っており、実践も積んでいる状況である。
- 会長： ・市税の滞納徴収マニュアルは整備されているのか。
- ・また、学校で自治基本条例の子ども用副読本は、どのように活用されているのか、各学校の実態を具体的に次回、回答いただきたい。
- 会長： ・では、次に基本目標Ⅱの発表に入る。資料2の17ページから目標(3)(4)(5)の発表をお願いしたい。
- 行政： <目標(3) 資料2 18～21ページを基に発表>
- <目標(4) 資料2 22～25ページを基に発表>
- <目標(5) 資料2 26～29ページを基に発表>
- 会長： ・ただいまの発表で意見等があればお願いしたい。
- 委員： ・目標(5)シートのⅢ、「課題と今後の取組みの方向性」の中で、異校種間連携事業と活用カレンダーが万能のように記載してあるが、指標とか調査数値も下がっている。悪いということではないが、中身の変化がわからない。もう少し精査する必要があるのではないか。
- 行政： ・子どもの意識はかなり高く、よい結果が出ていると認識しているが、意識調査の一般の家庭、特に学校に子どもを持つ家庭の方は、意見を伺う機会等あるが、保護者でない家庭への周知がなかなかできていない状況である。今後とも検討をしていきたいと考えている。
- 委員： ・今の回答だと、学校に入っている家庭は、異校種間連携事業と活用カレンダーでいい結果が出ており、そうでない家庭は異校種間連携事業と活用カレンダーがないので指標が下がっているという風に聞こえてしまう。
- 行政： ・そういう訳ではないが、今後も分析を進めて検討を行っていききたいと考えている。
- 委員： ・この2事業だけでなく、新たな施策を講じてもらいたい。
- 行政： ・学校関係者評価委員会を毎年行い、学校を評価しているが、その前に保護者に対してもアンケートをとっている。その結果については各学校とも概ね良好な結果となっていることは報告しておきたい。
- 委員： ・23ページの4.結果に対する現状分析のところ、地域の関わりをさらに深めるという記載であるが、どのように地域とかかわるのか。地域とかかわるとき学校は4役の方が主で動いていると思う。それをずっと続けると若い先生達が地域の方たちとつながる機会が減ってしまう。昔、高浜中学校でバディ方式と言って若い先生とベテランの先生が組んでいろんな取り組みを行ったと聞いているが、そういう取り組みを地域と接するときにも取り入れた

方がよいと思う。

- 行政：・若手の育成を行う際には、委員の提案はとても参考になると考えている。実際地域との関係のコーディネートを行っているのが、管理職である教頭であることが多い。
- ・地域とともに計画する事業・行事などについては学校職員の参加をできるだけ呼び掛けているが、今の時代職務命令までは出しづらい状況になっている。もちろん、出席して関わっている教職員もいる。
- 委員：・部活なんかも外部の方（地域）を活用して先生の負担を減らしていければと思う。まるごと宝箱で見つけた方も学校で教鞭をとるなどして、活用していければよいと思う。そして、つながりを広げていければよい。
- 委員：・目標（3）シートのⅢ.「課題と今後の取組みの方向性」（3）に記載があることに関して、スポーツを行っている人は機会を与えれば参加してくれる人が多い。問題なのは常に家にいる人。こういった方を積極的に引き出すことが重要である。イベントを行っても参加する人が一緒なので、出てこない人の対策もしていただきたい。
- 委員：・目標（3）シートのⅢ.「課題と今後の取組みの方向性」（2）に関して、以前聞いた話で、アメリカのベンチャー企業で成功した青年が、成功した資金の一部を育ててくれた高校へ還元したという話を聞いたことがある。
- ・記載の内容を自分の学んだことを次に教えるということまでとらえているが、考え方として自分たちが受けた成果を地元へ還元していくような考え方の教育をしたらいいかなと感じた。
- 委員：・20ページの主な取組みの平成29年に記載がある、『高浜市のあゆみ 資料』について、例えば学校で教材として使用するなどの展開は考えているのか。
- 行政：・出ない人を外にということだが、注げる力が限られている中で、まずは学んだことを自分の中で完結してしまうことなく、誰かのために活かしていただくなど、次のステージに引き上げていくことに注力し、最終的にはなかなか動かない人を動かしていければいいと感じている。
- ・たかはま夢・未来塾でアンケートを取って、今大人になった元塾生たちが何を考えているか聞き取り調査行ったことがある。子どものころ感じていなかったことが、大人になってよくわかる、大人たちに支えられていたからこそ自分たちがあるんだ、という恩返しをしたいといった思いが多く手ごたえもあるので、取組みは今後も続けていきたい。
- ・『高浜市のあゆみ資料』の学校等での活用については狙いとしている。市誌編さん委員会の中には、学校の先生も入っているので、活用といったところもぜひ働きかけて行きたいと思っている。
- 委員：・28ページの取組みの記載のところで、地域の方を講師にした講座の開催とあるが、過去にどんな方々が協力したのか。

- 行政：・夏休みの児童センター講座の一環ということで、保育園・学校の先生や警察署の方などに声をかけている。
- ・年間を通じてという活動には広げられていないが、もしこんな人ということがあれば紹介いただきたい。
- 委員：・まだ人材は足りていないということか。
- ・地域にはもっと子どもたちに話しできる人はいると感じている。募集の周知がされていないのではないか。PRの方法を検討して講師発掘していただきたい。
- 行政：・今まで、口コミで声掛けを行ってきたところである。
- ・今後は、地域の公民館やまち協でも行っていただけたらと考えている。
- 委員：・ホコタッチを持っている人は毎日外に出ているので、福祉とのコラボも検討をするとよいかと思う。
- 会長：・それでは、最後に委員の皆さん、一人ひとりから、ご発言をお願いしたい。
- 委員：・意識調査結果が全体的に減少傾向にあり、残念である。
- ・市の情報は、ほとんどの方が広報紙から得ていると思うが、今回は行政への関心が少なかった方が多いと思う。
- ・できれば、広報紙の配布枚数を増やすような努力があるとよいかと思う。
- 委員：・4月のアンケートは数値が悪い、と感じる。
- ・広報はデジタル化してHPとかで見れるのはとても便利で、若い世代にはよいと思う。
- ・しかし、広報紙を配らなくなると町内会に入らなくなるとか、関係が気薄になるとか、防災のためだけに町内会に入る、というのはよくないと感じており難しい問題である。
- 委員：・意識調査の結果が全体的に減少傾向にあるが、目標値がそもそも高い場合がある。どうしてこの目標値になっていたのか、考えながら後期の計画にいかしていただきたい。
- 委員：・中期基本計画の4年間多くの事業を行っていただいた。
- ・よくなったが、市民によくなったことが伝っているのかな、と感じた。
- ・中期で残った課題に対しては、後期のアクションプランなどでも引き続き対策を講じていただきたい。
- 委員：・数値が下降傾向なのは、地域的なものなのか、回答率の関係のものなのかかわからないが、企業はこだけ数値が悪いと合宿を行い改善活動するところもある。
- ・いまだに中央公民館がなくなってさみしいという意見を聞く。なくなったことをいつまで言っているのかと思うが、それほど思い入れがあったのだと思う。
- ・そう考えると私は学校に思い入れが強い。現在、高浜小学校の複合化が進んでいるが、学校を思い出の場として、コミュニケーションの中心に持ってい

くのがよいと思っている。

- 委員：・中期の取り組みはよかったので後期にも期待したい。
・人の部分は行政の中でも、地域の中でも重要である。人の部分は限られてくる。行政と企業は連携してはどうか。全部自前でやるということではなく。
- 委員：・まちの人たちを次の担い手にどう取り込んでいくかが重要であると思う。
・地域に若い世代が能力を還元する話があったが、いま行っているリーダー研修で受講している子たちがきっと高浜を担うような大人に育ってくれると思う。
- 委員：・新しい人材をいかにピックアップしていくか。人の問題が主だと感じた。
・最近フェイスブックを行いしたが、地域に人はいっぱいいると感じた。人はいるので興味のある人を取り込むような施策が重要と感じる。
- 委員：・Ⅱの何をどうしたという部分ですが、内容毎年一緒である。せっかくいろいろな取り組みをされているので書き方を変えてはいかがですか。
・課題に対しての取り組みを書くところは整合性がないように思える。資料の作り方に関して検討していただければと思います。
- 委員：・貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。
・意識調査の結果について危機感を持っている。国の流れに順応して民間活用であるとか地域内分権（まち協設立）など行ってきたわけだが、動向等見ていると、今どこをやるかというのは見えていないが、まちづくりの根幹部分は行政がコストをかけて、行う時が来たのかなと感じている。
・町内会の加入率もどんどん下がっており、歯止めをかけないとまちは崩壊すると思う。町内会が崩壊したらまち協も一緒だと思うので、どこかで歯止めをかけて、数字があげっていくようなところを、行政がコストをかけて行っていく時期が来ているのかなと感じている。
- 会長：・意識調査の結果で、半数以上が下降線をたどっているのはショックである。
・社会的な外部環境変化にだま引張られるため、市民が不況感を持っているのかもしれない。好景気といわれているが全然好景気じゃない、賃金が上がらないということも影響するかもしれない。
・家庭の中が明るくなければ子どもの回答もいい回答にならない。そういったことも含めて、対応策を考えるにあたり、強い高浜をつくらなければならない。
・高浜の政策というのは、ざっくりと荒っぽく言えばハードの政策、ソフトの政策そして実はヒューマンの政策がある。
・ハードも公共施設総合管理計画に基づいて、 unnecessaryなものをスクラップしていかないと持ちこたえられない。
・事例として紹介するとある町で、人口は2万9千には切っているが、温水プール2つ持っている町があった。片一方のプールがボロボロになっており今後どうするかという状況であった。答えは簡単に廃止するしかない。しかし、住民は納得しない。前あったものがなぜなくなるだということ。

- ・つまりコスト負担に関しては、すごく鈍感ということである。
- ・ただ、高浜は違うと思っている。まちづくり協議会作って頑張ってきた。そして日本で初めて住民投票条例を制定したまちである。住民レベルの高さがこのまちの核である。
- ・ところが、まちづくり協議会のリーダーの後を継ぐ世代が出てこないという深刻な問題がある。
- ・なぜ出てこないか考えてみないといけないと感じている。社会環境なんかでいうと高齢者に突入する世代の年金が少なくなってきた。つまり高齢者の貧困化が始まっている。つまり充実した人が地域を支えていた時代は終わりつつある。そういう意味では、常勤のマネージャーみたいな人が事務局にいないと地域が持ちこたえられなくなっている。そうするとそこにもビジネス感覚が必要で給料も払っていく必要がある。その大展開が来ていると思う。
- ・もう一つ、若手という話があったが、いま若手は4割が非正規労働者である。こういう状況下で地域が崩壊するのを、手をこまねいてみていいのか。危機的状態にある。しかしそんな状態に関わらず、この中部地方は自動車関連企業の関係で潤っているため、危機感がない。金も増えない、職員も増やせない、地方交付税もなくなった、そうすると自主財源が伸びないとなったら、どう切り詰めていくか、住民の持っているエネルギーをどう発揮するか、再設計してどう当てはめていくかが問われている。
- ・余分なものはもうつukらない、あるものを徹底的に使い尽くす、だから公共施設のコンバージョン（転用）も考えないといけない。橋も壊れ始める、全部市の負担になってくる。そんなこと住民はわかっていない。
- ・そこで大事なのが、人づくり施策だと思う。時間がある人のためだけの生涯学習は終わりにしないといけない。図書館はただの貸本屋じゃない、公民館は中高年の自己実現だけの場所じゃない、文化ホールは公設演芸場じゃない、美術館は見せ物の場じゃない、福祉施設であり教育施設・社会再生産施設という位置づけに立って、それを支えていく人材を先頭に立って育てていく施策を行っていく必要がある。
- ・10年間頑張ってきたつもりだが、社会構造変化に対応した柔軟な施策が次は必要かなと思います。少し危機感を持った次第です。
- ・良い意味での地域を支える、人材を生み出すような生涯学習、スポーツ施策というのが大事じゃないか。これからの10年はソフトからヒューマン、支える人材、市民づくり施策にシフトした方がいいと思う。

- 会 長：
- ・委員の皆さまに「コメント用紙」が送付されている。本日の発言だけでは言い足りなかった点などがあれば、8月10日（金）までに事務局へご提出をお願いしたい。
 - ・事務局の方では、本日、委員の皆さんからのご発言、コメント用紙の概要を、

「シート」の「Ⅳ 推進会議コメント」の欄にとりまとめて、第3回の推進会議で「推進会議からのコメント」として確定するという形で進めていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

2. その他

- 会 長： ・「その他」に入る。事務局から何かあればお願いしたい。
- 事務局： ・次回は8月21日（火）午後7時から。基本目標Ⅲ・Ⅳの発表となる。
- 会 長： ・ただいま事務局から説明があったとおり、次回第2回推進会議は、基本目標Ⅲ（産業振興・環境保全・都市基盤整備・安心安全に関する分野）、及び基本目標Ⅳ（地域福祉・健康に関する分野）の発表となる。
- ・行政におかれましては、本日の委員の皆さま方からのご意見を踏まえ、今後の施策に活かしていただくようお願いしたい。
 - ・これをもって、第1回総合計画推進会議を終了する。